

「火薬工場跡地が『たちばなの丘公園』として生まれ変わります」

たちばなの丘公園は、保土ヶ谷区と旭区にまたがる市内で15番目に開園する総合公園です。10月5日に初めて一部開園する部分は、日本カーリット（株）の火薬工場跡地であり、火薬製造の歴史を伝える「土塁」¹やレンガ造りのトンネル、トロッコのレールなど当時をしのぼせる遺構が保存されています。公園一帯は、火薬工場の緩衝林としての雑木林や谷戸が残されており、豊かな自然と歴史が感じられます。また、工場時代から残る大木のサクラやイチョウに加え、花の名所となるように保土ヶ谷区の木である「ハナモモ」（5種類）やサクラ（8種類）などの花木を植栽し、四季折々の花が楽しめます。

1 開園部分概要

【面積】開園面積：3.5ha（全体面積：12.4ha）

【主要施設】

- ・保存土塁：4箇所、保存トンネル8本
- ・歴史解説サイン：9基、自然解説サイン：1基
- ・湿生植物の谷、草地広場、竹林、保全林（雑木林）
- ・男子トイレ、女子トイレ、バリアフリースイートイレ

【整備費】約3.7億円

【整備期間】平成18年～平成23年

【今後の整備予定】

用地取得状況に応じて順次整備予定

2 一部開園日

平成23年10月5日（水）



【保存土塁とトンネル】

3 たちばなの丘公園と火薬製造の歴史

大正8（1919）年、浅野総一郎²が設立した浅野同族株式会社（現在の日本カーリット（株）の母体）が日本で2番目の民間火薬工場として橋樹（たちばな）郡保土ヶ谷町³に保土ヶ谷工場を建設し、カーリット爆薬⁴の製造を開始しました。カーリット爆薬は鉱山や土木工事に使用され日本の産業の発展に寄与し、関東大震災後には野毛山貯水池のコンクリート床や横浜港大栈橋の残骸の除去にも利用されました。

平成7（1995）年に工場が閉鎖された後、周辺一帯の豊かな雑木林や谷戸を保全するために公園化を決定し、整備を進めてきました。園内には、火薬製造の歴史や自然を解説するサインを設置しています。

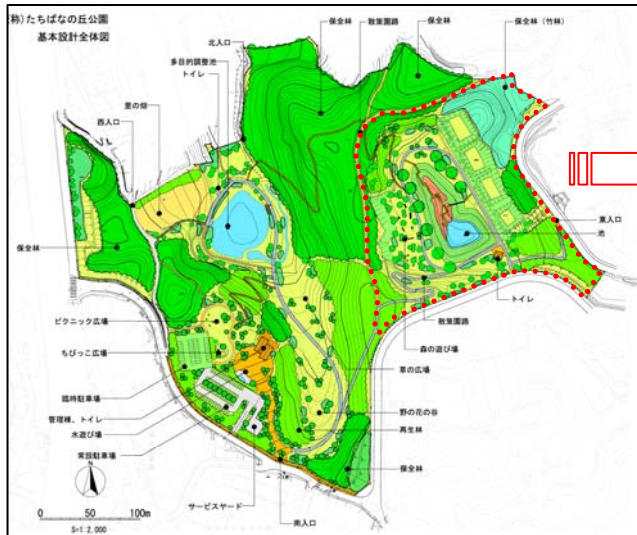


【レンガ造りのトンネル遺構】



【湿生植物の谷】

4 全体計画と一部開園区域の計画図



【全体計画図：コンセプト「身近な自然とふれあいの谷戸」】

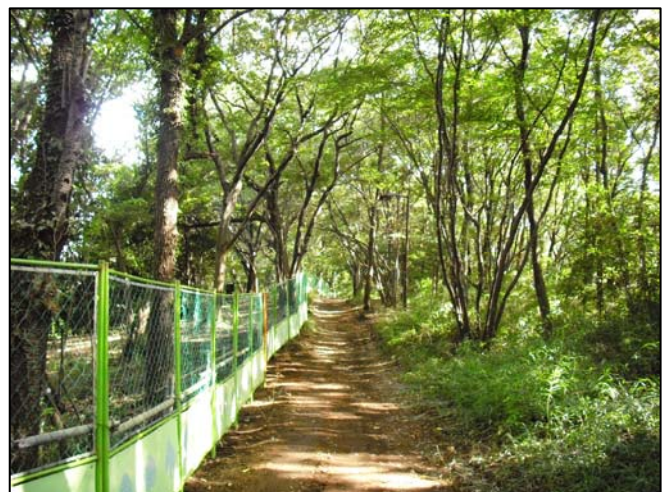


【一部開園区域計画図】

5 施設状況



【草地広場】



【保全林(雑木林)】

6 アクセス

【所在地】保土ヶ谷区仏向町 1585 番 2

【お願い】駐車場はありません。

来園の際は、公共交通機関をご利用ください。

【公共交通機関】相鉄線「和田町」駅下車

相鉄バス 19 系統「新桜ヶ丘団地」行き

「県公社住宅前」下車徒歩 5 分



【案内図】

- 1 土を盛って築かれた高さ 4～5 m の土堤のことで、「工室」と呼ばれる火薬類の製造を行う建物や火薬庫の周囲に設けられ、爆発事故の影響が周囲に及ぶことを防ぐ役割を果たした。レンガ造りのトンネルは、土塁内の工室への出入口として使われていたもの。現存する火薬製造に関する土塁やトンネルは全国でも珍しい。
- 2 横浜と縁の深い実業家。戦前の十五大財閥のひとつである浅野財閥を築き、浅野セメントの設立や京浜工業地帯の礎となる鶴見・川崎地先の海面埋立など、明治から昭和初期にかけて多くの功績を残している。
- 3 現在の保土ヶ谷区仏向町。「たちばな」という旧郡名が公園の名称の由来となっている。
- 4 ダイナマイトを発明したアルフレッド・ノーベルと同じスウェーデン人の O・B・カールソンが発明した火薬。カーリットの名前は発明者にちなんだもの。

お問い合わせ先

環境創造局公園緑地整備課長

上原 啓史 Tel 045-671-2614